

平成28年3月17日(木)

老球の細道221

スポーツにおける性差

会津バスケットボール協会 室井 富仁

女性差別撤廃条約の実施状況を審査する国連の女性差別撤廃委員会(CEDAW)は7日、日本政府に対する勧告を含む「最終見解」を公表した。新聞によると、多くの点で改善が求められた。特に、女性だけの再婚禁止期間の廃止、選択的夫婦別姓の採用、男女結婚年齢を同じにする、妊娠出産に関するハラスメントをなくす等だ。日本はまだまだ男女の差別が解消されていないということらしい。

一方、このような男女の差別的な内容が日常化している日本社会を尻目に、アメリカではヒラリー・クリントンがアメリカ史上初の女性大統領を目指して奮闘している。また世界のあらゆる才能が集まるアメリカの男子プロスポーツの現場においては今季女性コーチが2人誕生した。NBAプロバスケットボールでは史上2人目のコーチとなるナンシー・リバーマン(57歳)、NFLプロアメリカンフットボールではジェニファー・ウエルター(38歳)である。スポーツ大国アメリカにおいて、女性は、男性の超一流アスリートは指導できないという固定観念が崩れつつあるという。

この二人のうちNBAバスケットボールのサクラメント・キングスのコーチに就任したナンシー・リバーマンは18歳で出場したモントリオール五輪で銀メダルを獲得し、大学やプロリーグでも活躍した。男子の独立リーグでも2年間プレイし、引退後は女子プロチームでヘッドコーチを務め、96年に女性で初めて殿堂入りを果たした女猛者である。2009年にNBAの下部リーグで女性初のヘッドコーチに採用された時オバマ大統領から面会を求められ、次のような言葉をもらった。

「私が黒人でも大統領になれた。あなたが男性に教えることを普通と思わない人もいるだろうが、その流れを変えてほしい」。

彼女はその後家庭との両立が難しく、最後は母の道を選ぶ。しかし54歳になってからNBAでのコーチへの夢が再燃し動き始める。開幕前にNBAの若手が経験を積むサマーリーグに毎年自費で参加。各チームの練習場を訪ね、ヘッドコーチたちに自らの指導哲学を語った。そしてサクラメント・キングスのヘッドコーチ、名将ジョージ・カールからコーチ就任を要請された。リバーマンは言う「男性と違う何かをする必要はない。大切なのは、自信。きちんとした知識を持って指導すれば、選手はついてくる」と。

日本でも昔は男性しかプレイしなかったスポーツを今では女性も平気です。サッカー、ラグビー、レスリング、柔道等々。男子しか許されないのは相撲くらいしか思いつかない。しかし、コーチの分野になると女性の進出はまだまだ狭き門になっている。

わが会津地区においても大人の女性がバスケットボールを続ける人たちは非常に少ない。コーチやレフリーはさらに少ない。私の女子の教え子たちにも男子をはるかにしのぐ有能でリーダーシップに富んだ人材がたくさんいたが、社会に出てもバスケットに関わり続ける人間は極々少数にとどまる。スポーツこそ性差なき社会の象徴かもしれない。

名将エディ・ジョーンズ率いる元日本代表ラグビーチームには女子のメンタルコーチがいた。あのゴツイ男たちが自分の悩み事を女性コーチに話しながら究極の頑張りを見せた。昔から「男は歴史を作り、女はその男を作る」と言われる。